



## 《おたふくかぜワクチンの予防接種をご希望の方へ（説明書）》



おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）は、ムンプスウイルスが原因で発症する感染症です。感染力が強く飛沫感染後、増殖したウイルスは全身に広がり、各臓器に病変を起こします。潜伏期間は2～3週間です。周りの人に感染させる可能性のある期間は、発病数日前から耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が始まった後5日を経過するまでと考えられています。

主な症状は耳下腺の腫脹で、圧痛、発熱を伴うこともあります。年長児や成人が罹患すると、症状が著明で、合併症の頻度が高くなります。

合併症で最も多いのは無菌性髄膜炎で、診断される頻度は1～10%です。頻度は少ないですが、他に脳炎、肺炎などがあります。男性は精巣炎、女性は卵巣炎を合併することもあります。

特に難聴は、1,000例に1例程度で合併すると言われており、永続的な障がいとなるので注意が必要です。

### 【ワクチンの概要】

ムンプスウイルスを弱毒化した生ワクチンです。ワクチンを接種後、90%以上の人に抗体ができ、国内での流行時調査では、ワクチンの効果は80%程度と考えられています。ワクチンを受けていたにもかかわらず発症した人のほとんどは、軽くすんでいます。

## 1. 接種を受けるときの注意

予防接種は体調の良いときに受けるのが原則です。安全に予防接種を受けられるよう、保護者の方は以下のことに注意して、当日に予防接種を受けるかどうか判断してください。

- ①おたふくかぜワクチンの効果や副反応などの注意すべき点について十分理解できるまで説明を受けてください。説明に同意した上で接種してください。わからないことは、接種を受ける前に接種医に質問しましょう。
- ②当日は体調をよく観察して、ふだんと変わったところのないことを確認しましょう。
- ③母子健康手帳は必ず持っていきましょう。
- ④予診票は、接種する医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。
- ⑤予防接種を受けるお子さんの日頃の健康状態をよく知っている保護者の方が連れていきましょう。

## 2. 予防接種を受けることのできない場合

- ①明らかに発熱のある人（通常は37.5度を越える場合）
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③おたふくかぜワクチンの成分によって、アナフィラキシー（通常、接種後約30分以内に起こる呼吸困難や全身性のじんましん等を伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある人  
※他の医薬品投与を受けてアナフィラキシーを起こした方は、  
予防接種を受ける前に医師へその旨を伝え、ご相談ください。
- ④その他、医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

裏面も読んで  
ください



### 3. 予防接種を受ける際に注意を要する場合

以下に該当するお子さんがいると思われる保護者は、かかりつけ医がいる場合には必ず前もってお子さんを診てもらい、予防接種を受けてよいかどうかを判断してもらいましょう。受ける場合には、その医師のところで接種を受けるか、あるいは診断書又は意見書をもらってから予防接種を受けるようにしてください。

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けている人
- ②予防接種で、接種後2日以内に発熱及び発疹、じんましんなどアレルギーを疑う症状が見られた人
- ③過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
- ④過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある人及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる人
- ⑤薬の投与又は食事で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人
- ⑥受けようとしている予防接種のワクチンの成分に対してアレルギーをおこすおそれのある人

### 4. 他のワクチンとの接種間隔

この予防接種を受ける前に、他種類の注射生ワクチンを受けた場合は27日以上空ける必要があります。お子さんの安全のため、母子健康手帳を必ず持って病院へ行きましょう。

### 5. 予防接種を受けた後の注意事項

- ①予防接種を受けた後30分程度は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応が、この間に起こることがまれにあります。
- ②接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- ③接種当日は激しい運動は避けましょう。
- ④接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

### 6. 接種後に起こるかもしれない体の変化

接種箇所が赤くなったり、腫れたりすることがあります。注射した所だけでなく、接種後2～3週間ごろに発熱、耳下腺の軽度の腫れ（約1%）、嘔吐、咳、鼻汁等の症状がでることがあります。これらの症状は通常、数日中に消失します。接種直後から翌日に過敏症状として発疹、蕁麻疹、かゆみなどが現れることがあります。

無菌性髄膜炎の副反応報告頻度は、接種1,600～2,300人に1人程度です。まれにショック、アナフィラキシー（0.1%未満）、血小板減少性紫斑病（100万人に1人程度）、難聴（0.1%未満）、精巣炎（0.1%未満）や、頻度は不明ですが、急性散在性脳脊髄炎（発熱、意識障害、運動障害など）、脳炎・脳症、急性膵炎の報告があります。

**予防接種を受けた後、気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐ医師に相談してください。**

### 7. もしものために知っていただきたいこと

おたふくかぜワクチンは、予防接種法の対象となっていないので、万が一、予防接種で副反応が現れ、医療機関での治療が必要になったり、生活が不自由になったりしたとき（健康被害）は、予防接種法に基づく救済の対象とはなりません。ただし、都城市予防接種事故災害補償規則並びに独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済の対象となります。

※制度を利用するには、申請が必要です。診察した医師や都城市にご相談ください。

※医薬品医療機器総合機構法に基づく救済制度については、医薬品医療機器総合機構のホームページ等をご覧ください。

**上記の点を十分御理解いただいた上で、お子さまへの接種の判断をお願いします。  
接種を受けられる場合は、「おたふくかぜワクチン予防接種予診票」に必要事項を記入の上、医師の診察を受けてください。もし、普段と変わったことがあった場合には医師にご相談ください。**

**【この説明書の問合せ先】 都城市保健センター（中心市街地中核施設 Mallmall 内） 電話：36-5661**